

第4回小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略等推進委員会

日 時 平成30年11月20日（火）午後6時30分～午後8時32分

場 所 本庁舎3階 第一会議室

出席委員 7人

委員長 渡 邊 嘉二郎 委員

副委員長 小 川 順 弘 委員

委 員 松 本 敏 朗 委員 鴨 下 明 子 委員

橋 田 壤 志 委員 小 宮 貴 大 委員

天 野 建 司 委員

欠席委員 2人

委 員 本 間 紀 行 委員 沼 崎 明 大 委員

---

事務局職員

企画政策課長 梅 原 啓太郎

企画政策課企画政策係長 古 賀 誠

企画政策課企画政策係主任 金 原 真紀子

---

傍 聴 者 1人

（午後6時30分開会）

◎渡邊委員長 本題に入る前に事務局から本日の委員会について確認事項があるとのことですので、事務局から説明をお願いします。

◎古賀企画政策係長 本日の委員会記録についての確認です。本委員会につきましては、平成30年7月31日の委員会において全文記録と決定したところですが、本日のワークショップの作業部分に限り、省略させていただきたいと考えております。

具体的には、委員会記録中、ワークショップの作業部分について、「（ワークショップ）」との記載のみとなり、委員発言部分はすべて省略されます。

◎渡邊委員長 事務局から本日の委員会記録について説明がありましたが、本日はワークショップを行うので、その部分に限り省略するという整理でよろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎渡邊委員長 それでは、本日の委員会記録はそのようにさせていただきます。

---

◎渡邊委員長 それでは本題に入ります。

ただいまから第4回小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略等推進委員会を開催します。

初めに、議題1「ワークショップ」を議題とします。事務局からの説明を求めます。

◎梅原企画政策課長 はじめに、本日の委員会において、「未来の小金井市の目指すべきまちのイメージ」について検討する趣旨についてお話しさせていただきます。

これまでお話をさせていただいておりますとおり、現在、市には第4次基本構想・後期基本計画と「まち・ひと・しごと創生総合戦略」という2つの市政全般にわたる計画がございます。

平成33年度からの新たな基本構想・基本計画の策定にあたりましては、2つの計画を統合していく予定でございますが、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」は人口ビジョンを踏まえた長期的視点に基づく計画であり、今後策定される長期総合計画についても、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」と同様、長期的視点、特に人口減少社会という社会潮流を見据えて計画策定を行わなければならないと考えております。

このことから、2つの計画の統合のため、本委員会では「30年から40年先を意識した本市のあるべき姿や長期ビジョン等」を御検討いただき、その成果を次期長期総合計画につなげてまいりたいことから、本委員会におきまして「未来の小金井市の目指すべきまちのイメージ」について、検討をお願いするものでございます。

第3回の委員会でお配りした資料5の4、開催スケジュール（案）のとおり、今日の第4回委員会と次回、第5回委員会で、「未来の小金井市の目指すべきまちのイメージ」やその実現手段について検討し、第6回委員会でその検討内容を新たな長期総合計画策定に向けた意見書の形にまとめてまいりたいと思いますので、よろしく申し上げます。

◎渡邊委員長 本日は「30年後、小金井市が「住みよさランキング」で上位に入りました。その理由は何でしょうか？」をテーマに未来の小金井市の目指すべきまちのイメージについて意見を出し合っていたいただきたいと思います。事務局から資料が2点提出されております。初めに資料1の説明を求めます。

◎古賀企画政策係長 それでは、事務局から資料の説明をさせていただきます。

本日は、第6回委員会で予定されております意見書（案）作成のための前段の作業ということで、未来の小金井市の目指すべきまちのイメージをまとめていただきたいと思います。

昨今、複数の民間企業等により「住みよさランキング」が公表されているところです。この間、議会におきましても同様のランキングについて議論されたこともございます。我々としては、この「住みよさランキング」で上位に挙げられるということが30年後の小金井市を考えていく上で分かりやすい大きな目標の一つだと考えております。そこで、「30年後、小金井市が「住みよさランキング」で上位に入りました。その理由は何でしょうか？」をテーマに未来の小金井市の目指すべきまちのイメージについて意見を出し合っていたいただきたいと思います。

「資料1 本日のワークショップについて」を御覧ください。

「1 本日の目的」は、「未来の小金井市の目指すべきまちのイメージ」をまとめることとなります。

「2 ワークショップの概要」につきましては、前半と後半の2部構成で行いたいと思いません。

「(1) 前半」は30分程度の時間を使い、『30年後、小金井市が「住みよさランキング」で上位に入りました。その理由は何でしょうか?』をテーマに各委員がアイデアを付箋に書き出し、模造紙に貼り出してください。その後、模造紙に貼り出したアイデアから似たものをグルーピングし、「〇〇なまち」とネーミングするところまで行います。なお、付箋に書き出し、模造紙に貼り出す作業につきましては、本日、渡邊委員長の御厚意によりパソコン等の機材を御用意いただいておりますので、一部作業の仕方について変更させていただきます。

次に「(2) 後半」は20分程度の時間を使い、「未来の小金井市の目指すべきまちのイメージ」について、前半で出された「〇〇なまち」を参考に全体で5個程度（最大10個）の「〇〇なまち」というフレーズにまとめていただきたいと思います。

なお、次回につきましては本日まとめていただく「〇〇なまち」を実現するために、これからどのようなことに力を入れていくべきか、その実現手段について、各委員から御意見を伺うことを予定しております。

◎渡邊委員長 事務局から資料1の説明がありました。ここまでの説明に対し、質問等があればお願いします。

参考までに小金井市は「住みよさランキング」でどのくらいの順位でしょうか。

◎古賀企画政策係長 民間企業等によるランキングは多数存在すると思いますが、例えば、東洋経済新報社の都市データパック2018年版によると、住みよさランキングで全国814市区中214位となっております。参考までに近隣自治体を御紹介させていただきますと、武蔵野市が13位、立川市が37位、三鷹市が91位、府中市が108位、国分寺市が133位、調布市が140位、国立市が175位、小平市が177位となっております。

◎渡邊委員長 他に質問等はございませんか。

（「なし」の声あり）

◎渡邊委員長 それでは引き続き資料2の説明をお願いします。

◎古賀企画政策係長 それでは、資料2を御覧ください。

これから未来の小金井市について御議論いただくに当たり、30年後の東京都及び本市について、刊行物からの引用となりますが御紹介させていただきます。

「1 東京都」におきましては2040年代の未来ということで一部ではございますが、(1)から(7)までのようなことを列挙しています。

次に「2 小金井市」を御覧ください。平成28年3月に策定した小金井市人口ビジョン及び小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略では、次のように見込んでいます。「ア 人口」につきましては減少に転じ、老年人口は全体の30%超を占め、約3人に1人が高齢者となっております。「イ 今後の課題」及び「ウ 将来展望と目指すべき方向性」は当時の総合戦略に掲載したものを復習の意味で記載しています。当時は「今後の課題」として「若年層の転入維

持・転出抑制」、「子育て世代の住みやすさの向上」、「暮らしを支える産業の振興」、「高齢化の進行への対応」を列挙し、「将来展望と目指すべき方向性」として「小金井市の魅力の発信と人々の交流から移住・定住への誘引」、「いきいきとした子育て・のびのびとした子育ての促進」、「だれもが住み続けたいと思う安全・安心と自己充足の実現」を掲げ、総合戦略における事業を進めているところですが、今年は4年目となります。最後に「(2) 完了している事業」になりますが、現在、我々の身近で進んでいる事業はほとんど完了しています。資料にございますとおり「新庁舎及び（仮称）新福祉会館」が建設され、武蔵小金井駅周辺には高層マンションが建ち並び、東小金井駅北口の土地区画整理事業も終了しています。

◎渡邊委員長 事務局から資料2の説明がありました。ここまでの説明に対し、質問等があればお願いします。

（「なし」の声あり）

◎渡邊委員長 ここで私の方からも本日、資料を提出しておりますので、資料の説明をさせていただきたいと思います。

2種類あって、一つは未来の小金井が目指すべきまちのイメージ（デジタルデバイド0の取り組み）という資料で、これは日立製作所出身で経団連会長に就任した中西会長が会長を引き受けた理由として「Society 5.0」に取り組めるからとしています。また、内閣府はこのビジョンを内閣府決定しました。

この「Society 5.0」は何かというと、狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において提唱された社会です。

インターネットで「Society 5.0」とすると、山ほど出てきますので、ちょっと見ていただければと思います。これはどういう社会かということ、情報社会というのは結構成熟しつつあるわけで、ただこれは本当の情報だけの社会であって、ものを売買するとかそういうのはできるんですけど、ものを実際に動かすということまではいっていないということで、提唱者の日立製作所が実証実験としてコペンハーゲンで進めているプロジェクトが「時刻表のない鉄道路線」です。これは何をやるかということ、駅のあちこちにセンサーを設置して、その日の乗客数を把握し、混雑状況に応じて無人運転車両の運行本数を自動的に変えるシステムです。

これは「Society 5.0」の実証実験の一つとして行っております。今までは情報だけの世界で閉じていたんですけど、それともの世界、サイバーの世界とリアルの世界を結び付けて日本をもう一回作り直していきたいというのが「Society 5.0」で、国も結構本気で取り組み、実業界も結構本気で取り組もうとしています。今まではネット社会でみんなアメリカにやられてたわけですね。グーグルとかアマゾンに通販でやられてたんですけど、アップルだってそうですね。日本の国家予算と同じ100兆円の資産を持っていますからね。日本もこのままだとまずいというんで、日本の得意技術であるものづくりと情報というのをうまく合わせた新しい社会を構築したいというのがあります。例えば、農業分野でも田んぼにセンサーなどを付けて自分の自

宅に居ながら田んぼの様子を見て、そういう情報を集めてやろうということで、いろんな分野で活用できるんですね。そういうときに我々高齢者というのは「Society 4.0」の情報社会ですら情報の空間になかなか入れないんですよね。そうは言いつつも、ますます情報ネットワークの中に入り込まざるを得なくなります。その時に一番損をするのが高齢者、デジタルデバイドと言われる人たちです。そこに入れないうちにすごく損をすると、そういう人たちをゼロにしたいという取組です。これは結構いろんなことを含んでいて、これに行政が係わってもいいんですけど、若い者が高齢者に教えるという、若い子の方がはるかにスマホの使い方がうまいわけであって、そういう人たちが教えるとかそういうしくみを作っていくことを次の課題として取り組んだ方がいいかなと思います。

もう一つが30年後というよりは今から行った方がいいかなということで、一つはふるさと納税の取組です。ふるさと納税というと、東京に居る人が自分の故郷に納税すると思われがちですが、全然そういうことではなくて、納税ではなくて寄附でありまして、小金井に住みながら小金井にふるさと納税はできるんですね。これはまちの魅力を測るバロメーターとしてすごくいいかなと思ってるんですね。最初、私は返礼品を受け取ることにすごく抵抗感があり、寄附なんだから100%寄附したいという思いがありました。しかし、ある自治体の首長さんに聞いたら、是非返礼品をもらってほしいと言うんですね。何でって聞いたら、要するに行政が営業の仕事の窓口となって営業能力のない農家の方の芋を売りたいとか何とかを売りたいとかいうことにより、地方産業が活性化するというんですね。それから返礼品をもらうようにしました。これはメリットがいくつかあって、地方自治体の収入が増えると、小金井市も収入が増えるということです。それから返礼品を通した地域産業の活性化ができるとともに市職員の意識改革ができる。先ほど聞いたんですが、小金井市もようやくふるさと納税を始めたということです。このふるさと納税の返礼品を集めるために市の職員もいろんな商品を探されたと思うんですね。これがすごくいいと思うんですね。今まで待っていた世界から市の職員の方が地域の魅力あるものを探すという市の職員の意識改革になる。また、今までなかった小金井市の新たな商品を想像していくヒントになると。それから返礼品をもらう方にもメリットがあります。要するに税金の控除になります。だから、返礼品をほとんど無料でもらうようなものなんです。例えばどんなものかということで、小金井カントリークラブは小平市にありますけど、小平市も返礼品に使いにくいでしょうから、小金井市と小平市が連携して小金井カントリーのプレイ券を返礼品にしてはどうか。これは例ですけど、実際にこんなことを話すと是非ふるさと納税をやりたいという人がいっぱいいるんですね。天下の小金井カントリーで一生に一度でいいからプレイしたいという人が結構いるんですね。ゴルフは一人でプレイしませんから、4人ぐらいでプレイするので、一気に4人のふるさと納税がそこでできると。それから小金井市にはいろんなイベントがありますよね。そういうイベントを返礼品にするというのものもあるかなと思います。また、宮地楽器ホールではコンサートとか落語とか開催されていますけど、それらのチケットを返礼品にすると。まあ、考え出すとたくさんの返礼品のアイテムが出てきますね。財政難だ、

財政難だと言わずに、これはすぐに実施した方がいいと思います。

二つ目は学園都市宣言というのをやった方がいいんじゃないかということで、小金井市には東京学芸大学、東京農工大学、法政大学とあって、小金井市はそれらの大学と連携協定を結んでいるんですね。そこまで来てるわけですから学園都市宣言の準備をし、それぞれの大学から委員も出してもらって、この宣言の下で何をやるかということ議論し始めた方がいいのではないかと思います。大学の市民教養講座や青少年の科学の祭典への小金井市の取組や現在取り組んでいる文教関係諸事業の見直しと再構築、小金井市の小・中・高・専門学校と大学の連携、私塾との連携などを例にして企画内容を深めてはどうかと思います。

三つ目が市職員の仕事の合理化ですね。合理化すべき例では、会議における発言録は不要であり、要点を整理した報告にしたり、会議における読み原稿は不要であり、会議の目的を明確にしたり、余力を作り、例えば長期計画などの立案を職員で行ったり、市役所にいない行政営業職員を置いたりするなど、これらを参考に仕事の見直しをしてはどうかと思います。私の資料説明は以上です。

---

◎渡邊委員長 それでは、前半のワークショップを行いたいと思います。2グループに分かれて行う予定でしたが、本日は2名の委員が欠席されておりますので、1グループで行いたいと思います。なお、本日は傍聴者の方が1名いらっしゃいます。本日の会はいつもの委員会形式ではないので、せっかく傍聴に来ていただいておりますが、会の進行が分かりづらいと思います。

そこで事務局にお聞きしますが、傍聴者の方々にワークショップに御参加いただくことは可能ですか。

◎古賀企画政策係長 委員の皆さんがよろしければ、事務局としては是非御参加いただきたいと思います。

◎渡邊委員長 委員の皆さんもいかがでしょうか。一緒に御参加いただくということでよろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎渡邊委員長 異議なしということでよろしいですね。

それでは傍聴者の方にお聞きしますが、一緒にワークショップに参加しませんか。

(「傍聴のみで結構です」との声あり)

◎渡邊委員長 わかりました。それではいつものメンバーで行いたいと思います。

これからワークショップを始めたいと思います。

(ワークショップ)

◎渡邊委員長 それでは、本日は資料1の2(1)、前半が終了したところですが、2(2)の後半につきましては次回の委員会の中で行いたいと思います。

以上で議題1を終了します。

◎渡邊委員長 次に、議題2「次回の開催日」について、事務局から説明をお願いします。

◎古賀企画政策係長 次回の開催につきましては、平成31年1月を予定しているところですが、現時点では閉会中の委員会等の開催日が決定していないことから、後日、日程調整をさせていただきたいと考えております。

◎渡邊委員長 次回の開催日については、どのように調整する予定ですか。

◎古賀企画政策係長 事務局から12月中旬から下旬頃にメールにて委員の皆様へ候補日をお知らせし、委員の出席が一番多く見込める日程で開催したいと考えております。

◎渡邊委員長 それでは次回の委員会開催日の日程調整については事務局にお任せします。

以上で本日の議題はすべて終了しました。おつかれさまでした。

(午後8時32分閉会)